

2026年11月期第2四半期 決算説明資料

2026年7月13日(月)

アステナホールディングス株式会社
(東証プライム市場:8095)



- 01 2026年11月期第2四半期 決算概況
- 02 トピックス
- 03 (ご参考)会社・事業概要

- 01 2026年11月期第2四半期 決算概況
- 02 トピックス
- 03 (ご参考)会社・事業概要

売上高は、HBC※・食品事業における新規連結子会社の寄与もあり大幅に増収、営業利益は、化学品事業の寄与により増益。
また上期業績予想に対して、利益を中心に超過達成。

(単位:百万円)

	FY2025上期 実績	FY2026上期 実績	前年同期比	増減率	FY2026上期 業績予想	達成率
売上高	30,102	34,566	4,464	14.8%	33,000	105%
営業利益	2,222	2,294	72	3.2%	1,600	143%
経常利益	2,149	2,148	△ 1	△0.0%	1,550	139%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,288	1,417	129	10.0%	1,150	123%
EBITDA	3,379	3,597	218	6.5%		

(注)EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

※「Health & Beauty Care」の略称

2026年11月期第2四半期 セグメント別業績

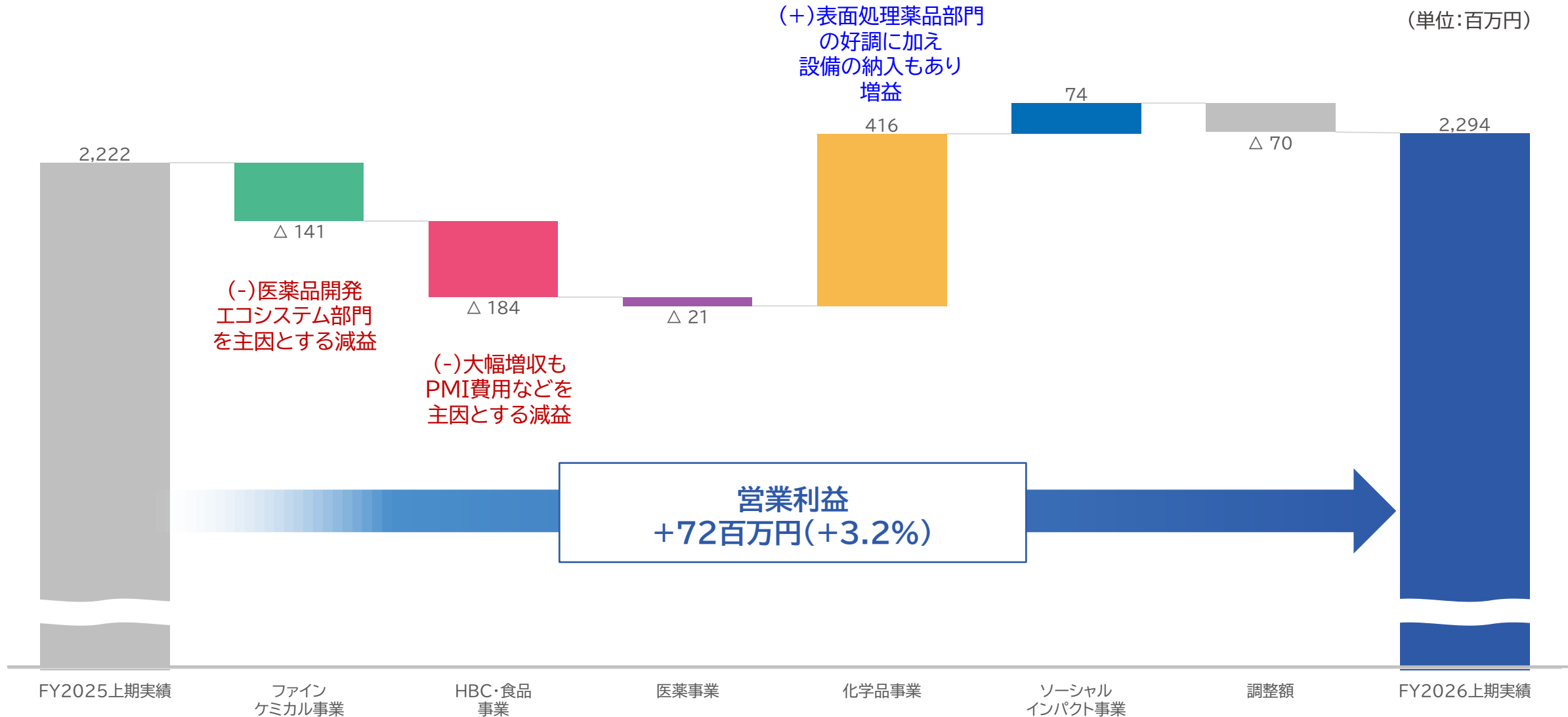
売上高は、HBC・食品事業池田物産グループの前第4四半期からの連結子会社化を主因に前年同期比4,464百万円の増収。
営業利益は、3事業部で減益となるも化学品事業の増益により、前年同期比72百万円の増益を達成。

(単位:百万円)

	売上高			営業利益			営業利益率	
	FY2025上期	FY2026上期	前年同期比	FY2025上期	FY2026上期	前年同期比	FY2026上期	前年同期比
ファインケミカル事業	11,558	10,930	△ 627	871	729	△ 141	6.7%	△0.9pt
HBC・食品事業	8,017	11,359	3,342	544	360	△ 184	3.2%	△3.6pt
医薬事業	6,009	6,250	241	679	658	△ 21	10.5%	△0.8pt
化学品事業	4,499	5,989	1,490	190	606	416	10.1%	5.9pt
ソーシャルインパクト事業	17	35	18	△ 202	△ 128	74	△364.3%	828.4pt
調整額	-	-	-	139	68	△ 70	-	-
連結	30,102	34,566	4,464	2,222	2,294	72	6.6%	△0.7pt

営業利益前年同期比増減

化学品事業の増益が牽引し、他事業の減益を吸収し、前年同期比で増益を達成。

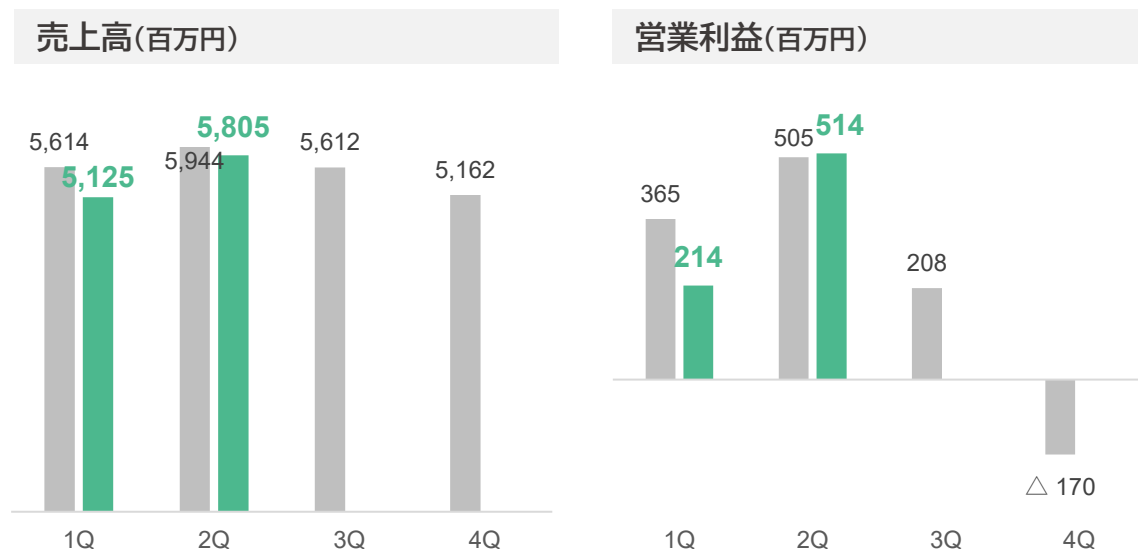


当期業績

(単位: 百万円)

	FY2025上期 実績	FY2026上期 実績	前年同期比	増減率
売上高	11,558	10,930	△ 627	△5.4%
営業利益	871	729	△ 141	△16.3%
営業利益率	7.5%	6.7%	△0.9pt	

四半期推移



部門別増減要因

医薬品開発エコシステム部門

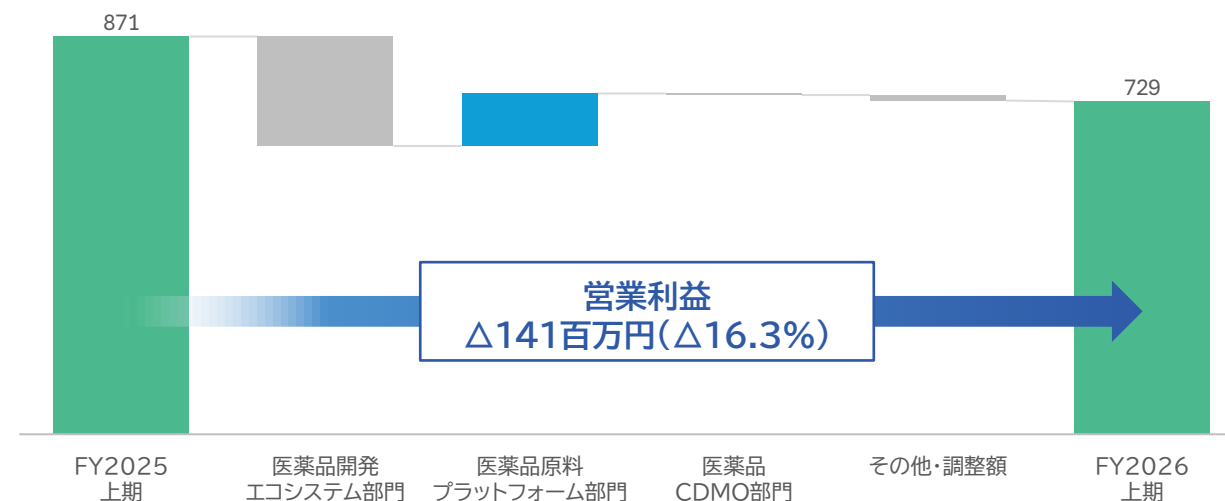
- Molecular Hiving法を用いた中分子原薬プロセス開発案件の拡大
- CMC分野における受注が限定的であったことから、売上・利益ともに低調に推移

医薬品原料プラットフォーム部門

- 輸入原薬の新規納入や既存品の拡大により、一部製品で原価率の悪化はあったものの、売上・利益ともに好調に推移

医薬品CDMO部門

- 製剤製造分野において治験薬や試験受託の獲得があったものの、原料製造分野において大型品目の減少もあり、売上・利益ともに低調



当期業績

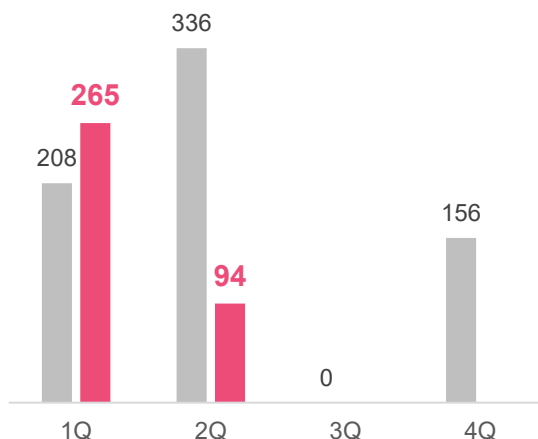
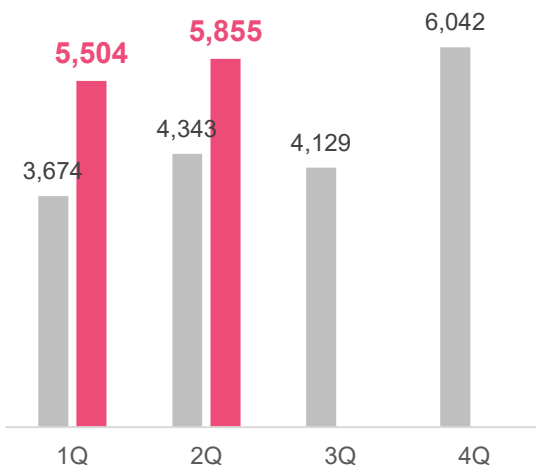
(単位:百万円)

	FY2025上期 実績	FY2026上期 実績	前年同期比	増減率
売上高	8,017	11,359	3,342	41.7%
営業利益	544	360	△ 184	△33.9%
営業利益率	6.8%	3.2%	△3.6pt	

四半期推移

売上高(百万円)

営業利益(百万円)



部門別増減要因

食品原料部門

- 機能性食品向け原料の販売が伸長したことにより売上は堅調に推移したものの、営業体制強化などに伴う販管費の増加により利益は低調

化粧品原料部門

- 2025年11月期第4四半期より新たに連結した池田物産グループの寄与や、海外展開強化による輸出が好調に推移したことにより売上・利益ともに大きく伸長

ライフサイエンス部門

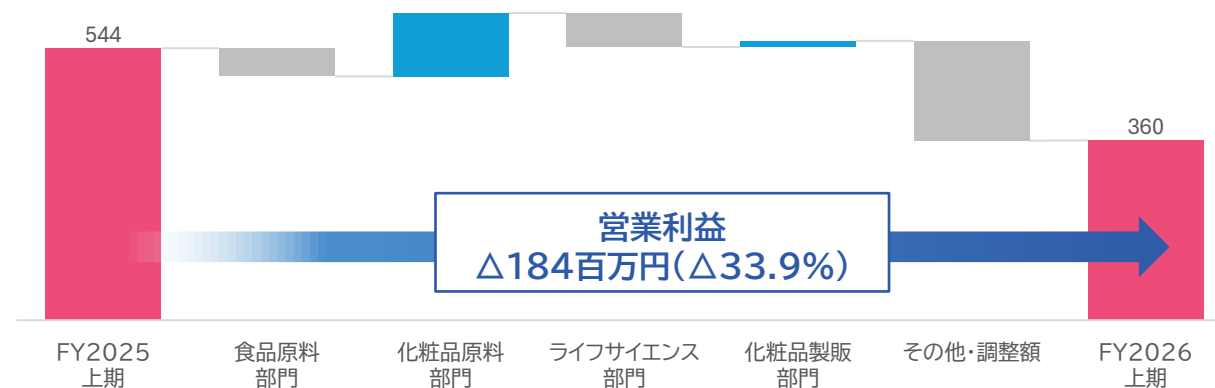
- 売上は堅調に推移したものの、前年同期に大きく寄与した研究用試薬・臨床検査薬分野の反動減により、利益は低調に推移

化粧品製販部門

- 「Torriden(トリデン)」をはじめとする韓国コスメの販売が好調に推移したことに加え、通販化粧品分野において一部カテゴリの撤退や広告販促の改善により販管費が減少したことにより売上・利益ともに好調に推移

その他・調整額

- 連結した池田物産グループに伴うのれん償却費や一時的なPMI関連費用の発生



当期業績

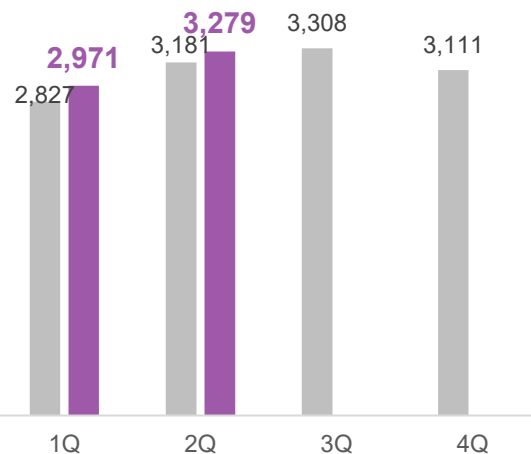
(単位:百万円)

	FY2025上期 実績	FY2026上期 実績	前年同期比	増減率
売上高	6,009	6,250	241	4.0%
営業利益	679	658	△ 21	△3.2%
営業利益率	11.3%	10.5%	△0.8pt	

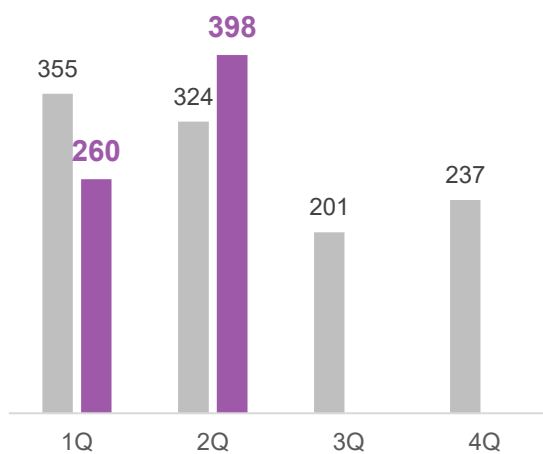
四半期推移

■FY2025 ■FY2026

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



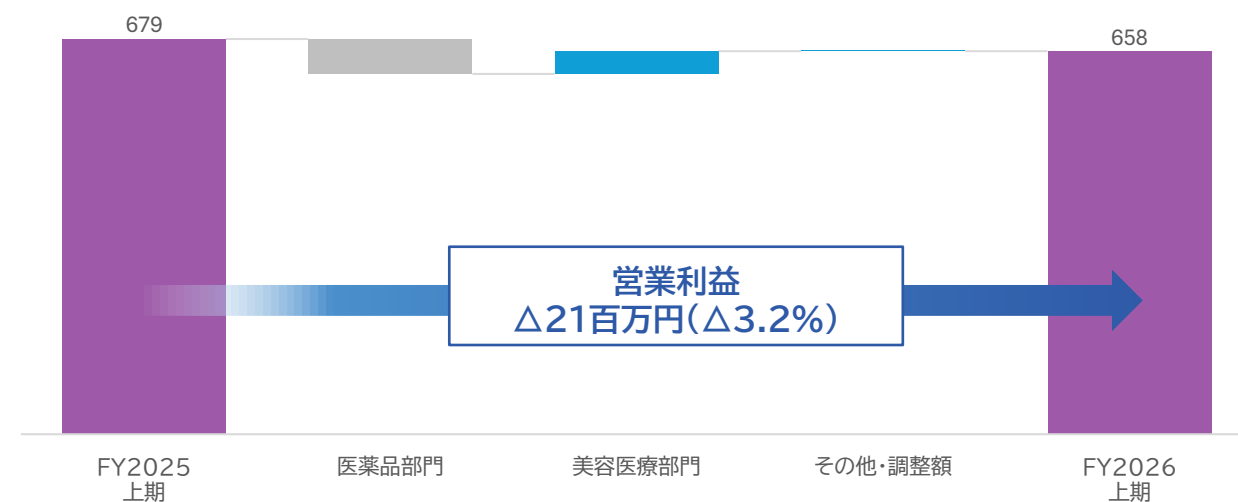
部門別増減要因

医薬品部門

- 先発品の代替需要として後発医薬品の需要が高い「クロベタゾールプロピオン酸エステル『イワキ』」をはじめ主力品の販売が好調に推移
- 製造体制や原料供給の制限などにより販売が低調に推移した品目もあり、全体として売上は堅調に推移
- 各種原材料費や経費は物価上昇の影響による増加があり、利益は減少

美容医療部門

- 美容医療市場の拡大もあり、医療機関専売化粧品「NAVISION DR」の主力シリーズの販売が順調で、売上・利益ともに好調に推移



当期業績

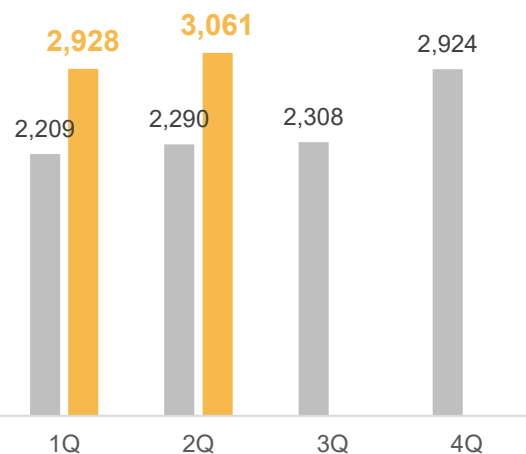
(単位:百万円)

	FY2025上期 実績	FY2026上期 実績	前年同期比	増減率
売上高	4,499	5,989	1,490	33.1%
営業利益	190	606	416	218.3%
営業利益率	4.2%	10.1%	5.9pt	

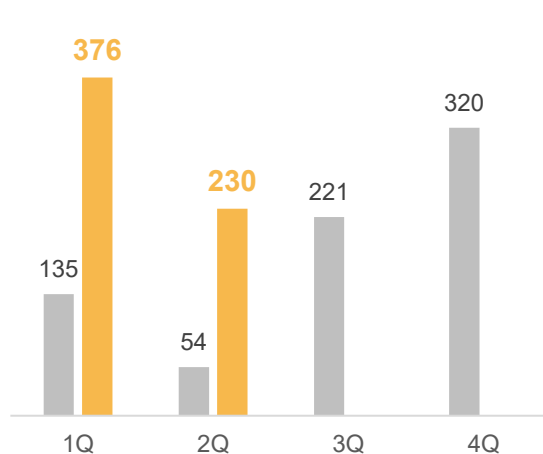
四半期推移

■ FY2025 ■ FY2026

売上高(百万円)



営業利益(百万円)



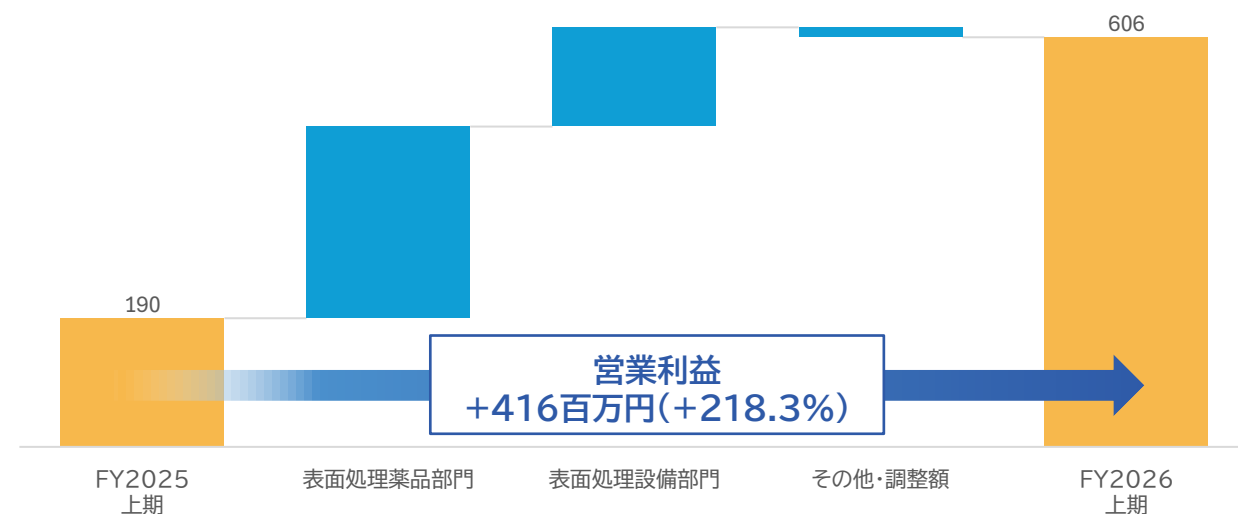
部門別増減要因

表面処理薬品部門

- 生成AI市場の急拡大に伴うパッケージ基板関連投資の活発化を背景に、中国での新規顧客獲得などが進み、受動部品向け薬品が好調に推移
- プリント基板向け薬品の需要も回復
- 部門全体において、原材料費は高騰したものの、増収に伴いその影響を吸収し、売上・利益ともに大きく増加

表面処理設備部門

- 大口顧客向けの設備販売が好調なことに加え、修理・メンテナンス分野の売上増加もあり、売上・利益ともに好調に推移



「能登から、未来の地域経済のかたちが生まれる。」を目指してヘルスケア部門と地方創生部門を展開。全国の販路拡大や自治体導入が進展し、売上高は前年同期比107%増の35百万円と大幅に増加。先行投資の効率化も進み、営業損失は対前年同期で74百万円改善。

ヘルスケア部門

NAIA

NAIAは10年後、20年後、さらにその先まで、健やかな暮らしを提供し、豊かな自然を保護することを目指す、石川県奥能登発のヘルスケアブランドを展開。

- ✓ 営業活動を着実に推進し、温浴施設・小売店への導入エリアは全国へ拡がりを見せた
- ✓ POPUPや新規販路の開拓を通じて販売チャネルを拡充し、売上は前年同期を上回って推移
- ✓ 初期投資の一巡に加え広告投資の効率化を進め、営業損失は前年同期から改善



<新製品「ライスエッセンスグロウマスク」>

地方創生部門

ふるさとNOW

地域の域外の人々が現地に赴いた際に、その場で納税ができて、その場で返礼品を受け取ることができるサービス「ふるさとNOW」を自治体向けに展開。

- ✓ 既存自治体での寄付額増加に加え、新規自治体への導入が進展
- ✓ 現地決済型ふるさと納税サービスとして導入自治体・導入施設を着実に拡大
- ✓ 事業収益性は着実に改善し、ふるさとNOW単体で損益分岐点を超え黒字化を達成

現地でふるさと納税
ふるさとNOW

ファンド投資

大学・地域・企業と連携したインパクト投資ファンドを通じ、地域課題の解決と新産業の創出を支援。

- ✓ のとSDGsファンド：能登地域の発展に貢献するスタートアップ等へ累計16件の投資を実施（投資期間終了し、回収期間へ）
- ✓ TUATファンド：東京農工大学初スタートアップを中心に投資を推進
- ✓ のとBeyond復興ファンド：第1号投資先としてNOTO Naorai(株)へ投資

のと
Beyond
復興ファンド

2026年11月期通期業績予想

売上高は、HBC・食品事業を中心に増収を見込み、すべての段階利益において過去最高益を目指す。
上期の進捗率が高いものの、第3四半期以降の業績については中東情勢に起因する原材料の調達における価格動向や供給制限などが懸念されるものの具体的な影響は精査中であるため、通期業績予想の変更はしない。

(単位: 百万円)

	FY2025 実績	FY2026 業績予想	前期比	増減率	FY2026上期 実績	対通期進捗率
売上高	62,744	68,000	5,255	8.4%	34,566	51%
営業利益	3,017	3,400	382	12.7%	2,294	67%
経常利益	2,910	3,300	389	13.4%	2,148	65%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,187	2,350	162	7.5%	1,417	60%
ROE	8.4%	8.5%	0.1pt			

中東情勢の影響

- ✓ 各事業において、原材料・資材(特に包装資材)の価格上昇や供給制約が一部顕在化しており、今後もその影響が継続する可能性あり。
- ✓ 製造工程で使用する燃料費や、荷造運搬費についても同様に上昇傾向にあり、今後の影響に注視。

当社は事業の成長と企業価値の向上に努めていくと共に、株主価値を考慮した資本政策等を勘案し、株主の皆様への利益還元の充実を図るため、安定的でありかつ業績連動性を持たせた「純資産配当率(DOE)1.5%を下限とし、配当性向30%を目標」とする配当方針を基本方針としております。

配当方針

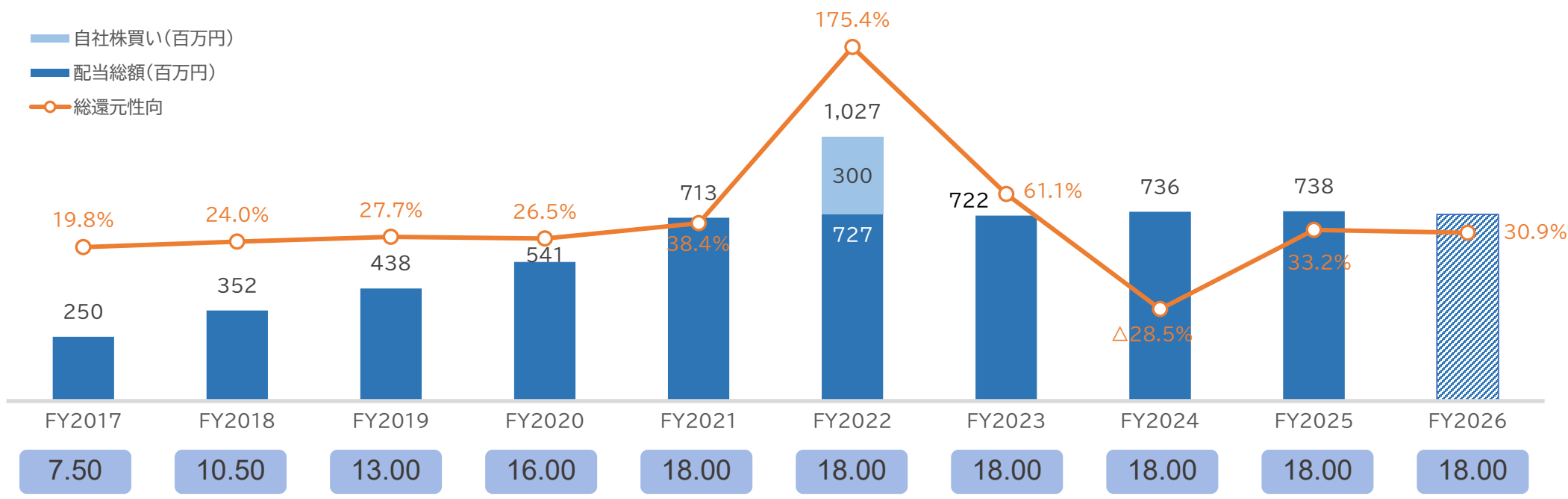
純資産配当率
(DOE) **1.5%** 以上

連結配当性向 **30%** 目標

2026年度
中間配当予想 期末配当予想

9円 **9円**

合計 **18円**

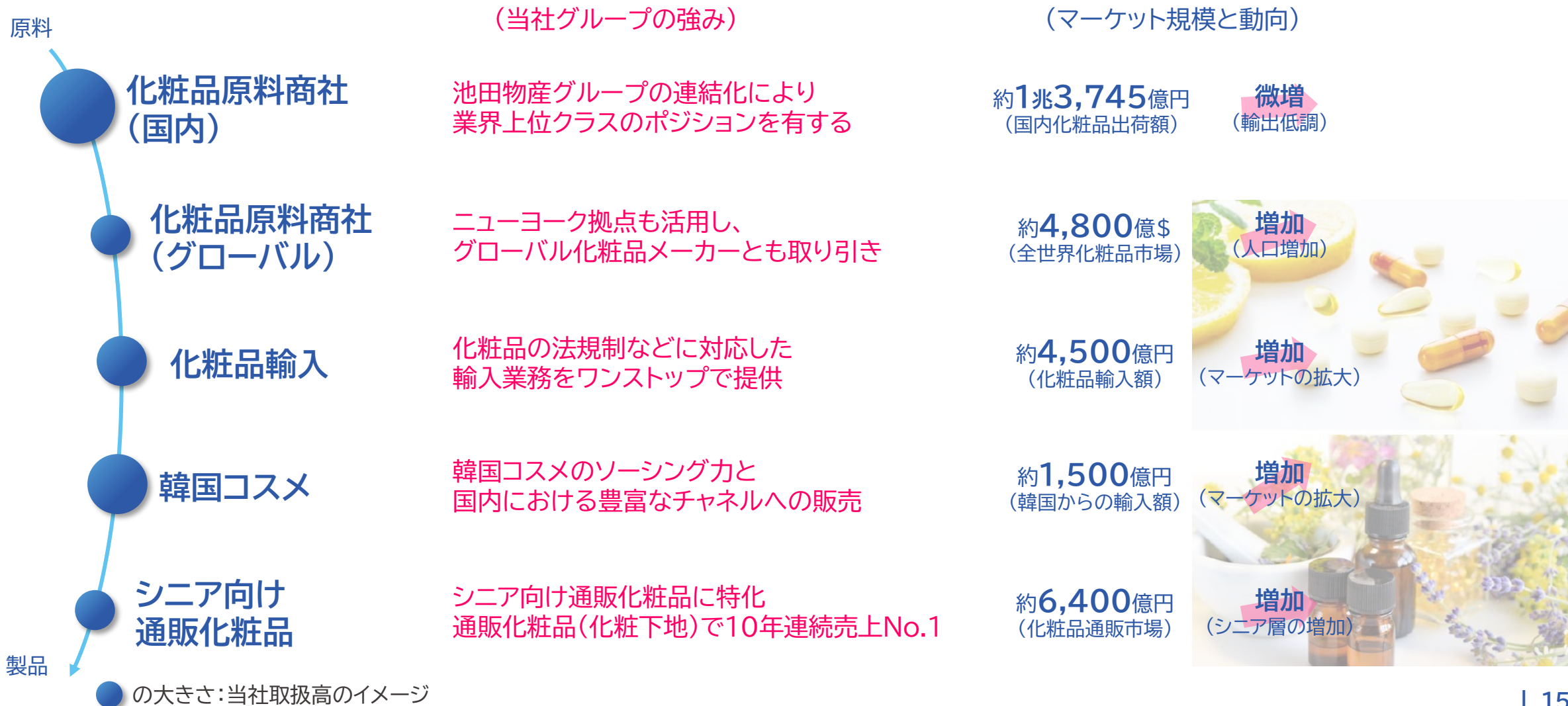


1株当たり
配当金(円)

- 01 2026年11月期第2四半期 決算概況
- 02 トピックス
- 03 (ご参考)会社・事業概要

化粧品マーケットへの価値提供

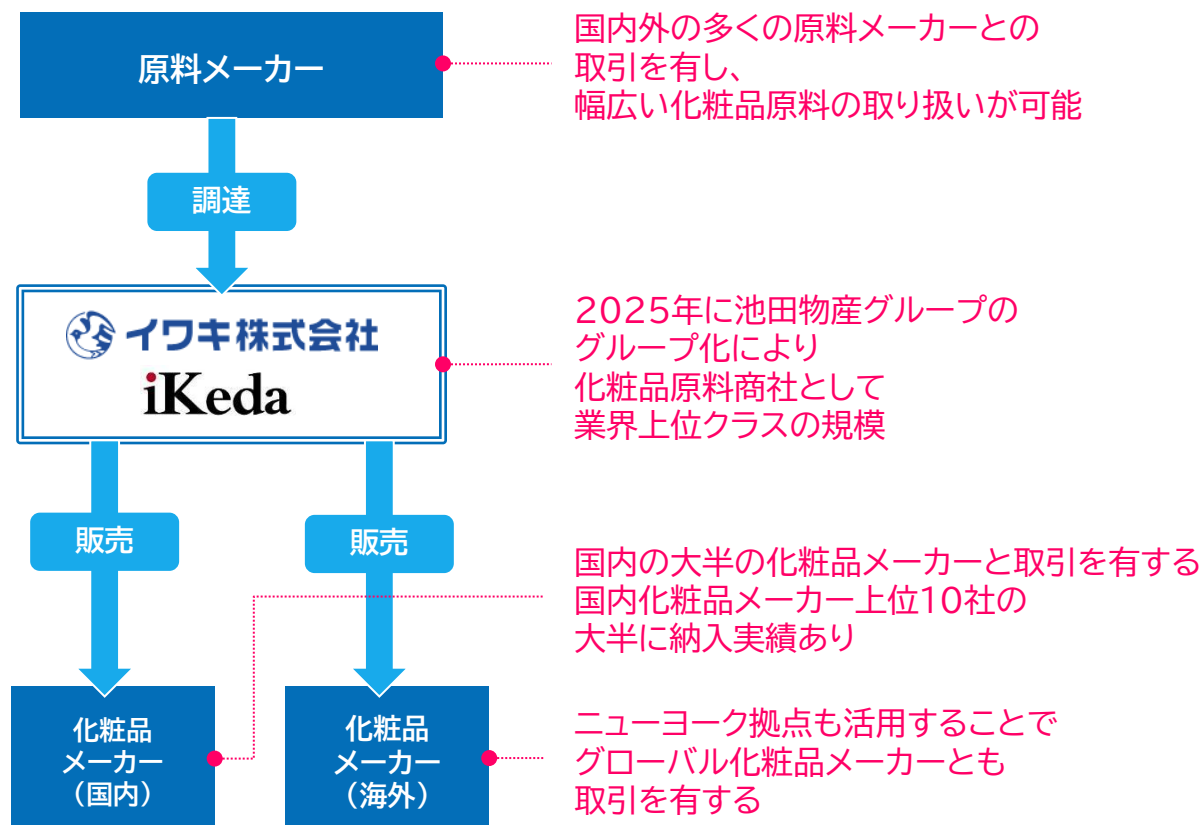
HBC・食品事業では、化粧品マーケットの川上から川下まで幅広い事業領域を展開しています。
バリューチェーン全体をカバーすることで、さまざまな領域においてお客様へ価値を提供できる体制を構築しています。



国内外の多様な化粧品原料を調達し、グローバルメーカーを含む多くの化粧品メーカーへ原料を供給しています。
特に海外での化粧品原料に強みをもつ池田物産グループの連結により取り扱い量が増加し、業界上位クラスの規模を有しています。

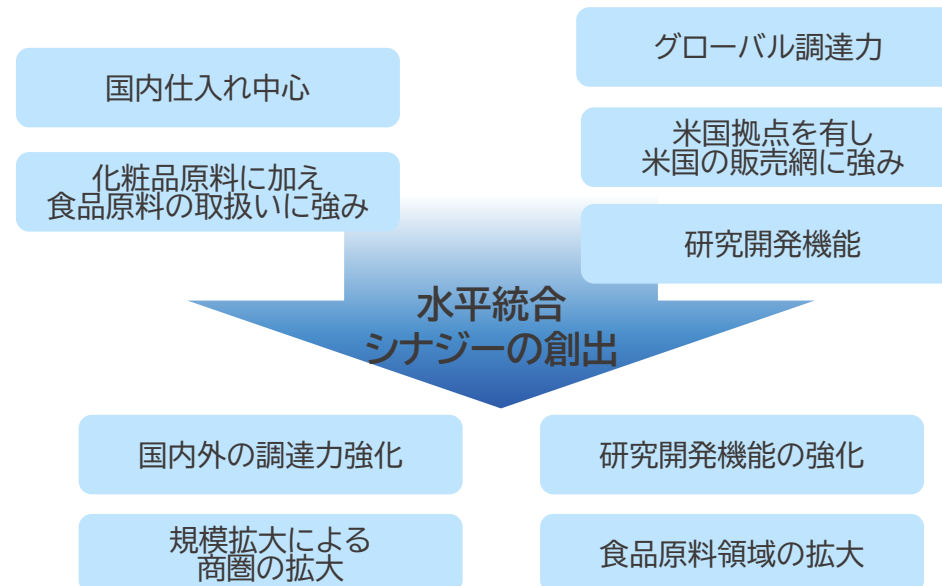
化粧品原料のビジネスモデルと当社の強み

国内外の多くの化粧品原材料メーカーとの取引を有し、
国内のほとんどの化粧品メーカーへの納入実績を有する。



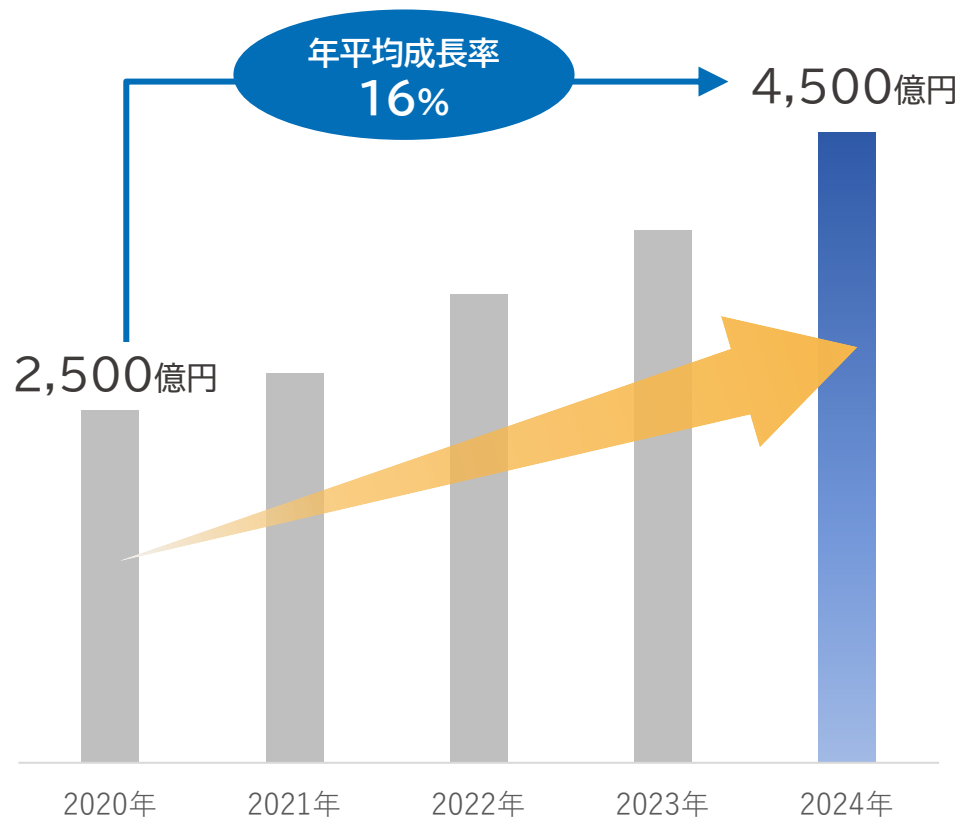
池田物産グループ連結子会社化のねらい

製品ラインナップ及び販売チャネルの拡充を通じ、化粧品原料部門と食品原料部門の機能を強化し、プラットフォームとしての地位をより強固にすることを目指す。



化粧品輸入に必要な薬機法対応や通関業務を、専門スタッフがワンストップで支援しています。
輸入に関わる煩雑な手続きを一括してサポートすることで、お客様が商品開発や販売に専念できる環境を提供しています。

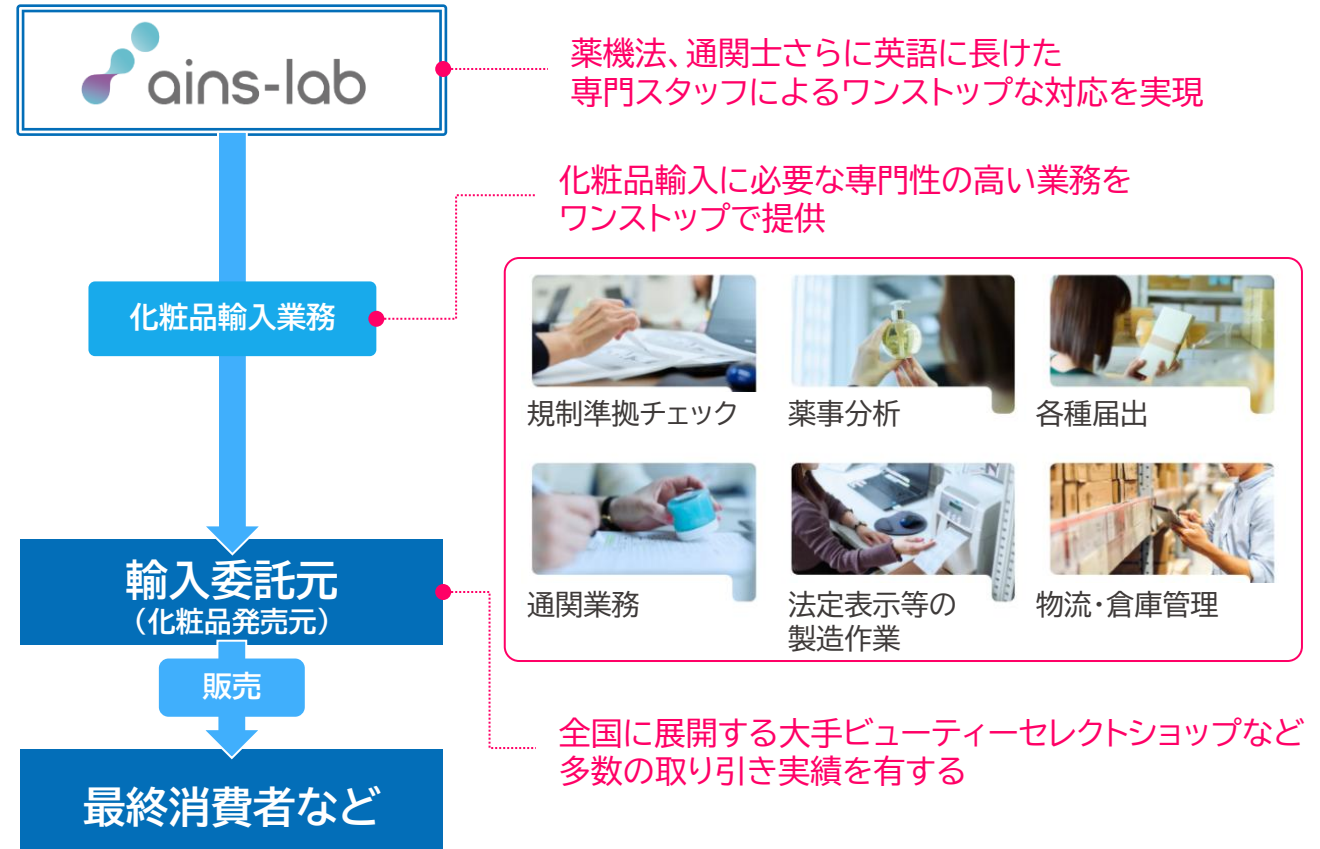
化粧品輸入額の推移



(出所)財務省貿易統計

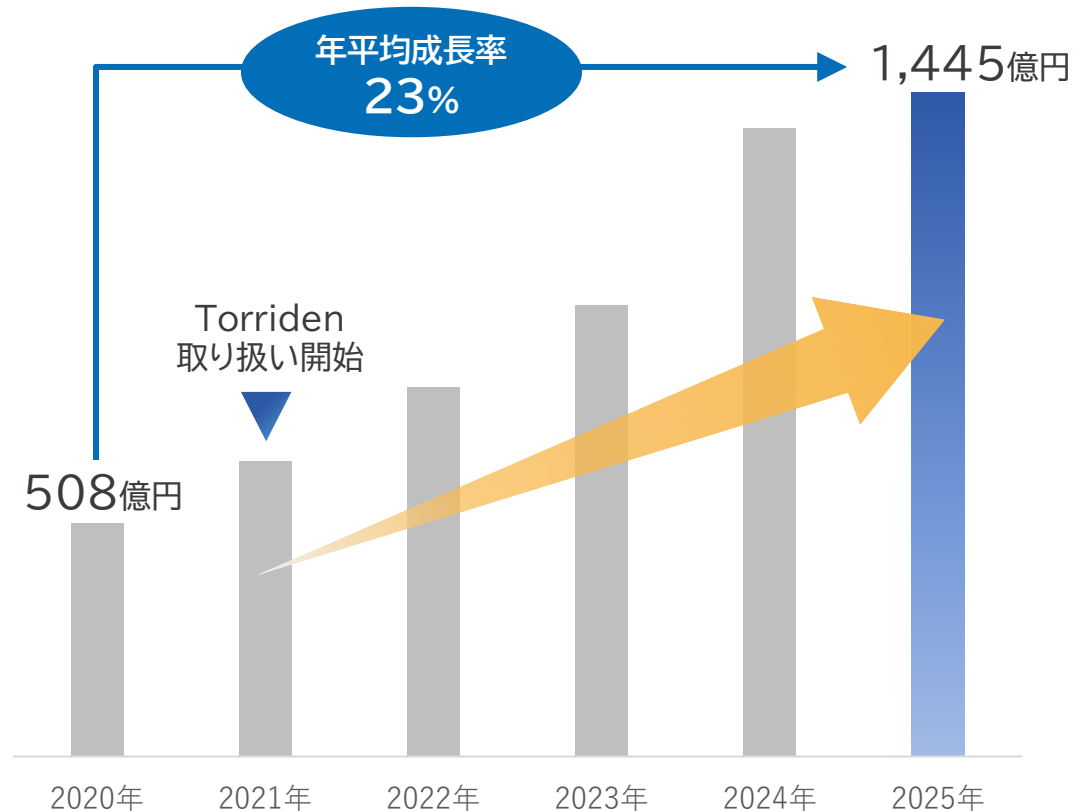
化粧品輸入のビジネスモデルと当社の強み

化粧品製造販売業の認可を取得しており、高い薬事・品質管理体制により年間数百件の輸入実績を有しています。



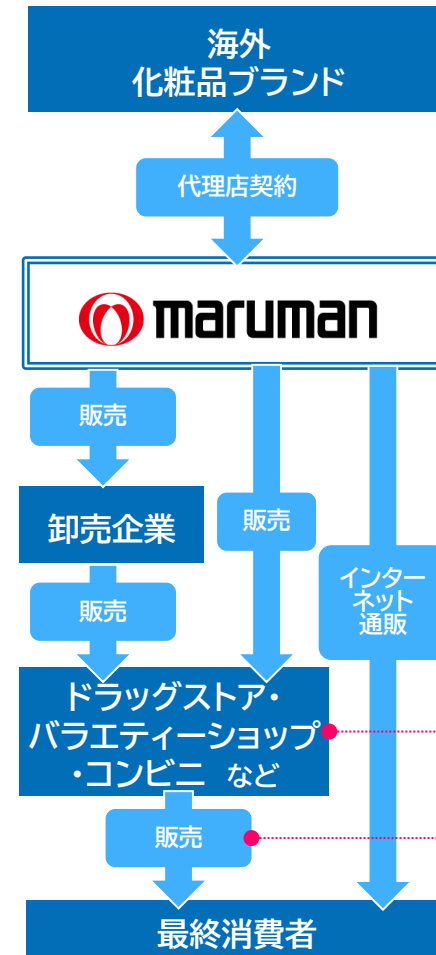
輸入化粧品市場では韓国からの輸入が大きく拡大しています。当社グループは、韓国コスメの豊富な販売実績に基づく幅広いソーシング力を活かし、複数ブランドを展開することで確固たるポジションを築いています。

日本国内における韓国からの化粧品輸入額



(出所)財務省貿易統計

韓国コスメのビジネスモデルと当社の強み



韓国コスメの販売実績に基づく幅広いソーシング力



<主力のTorridenシリーズ>

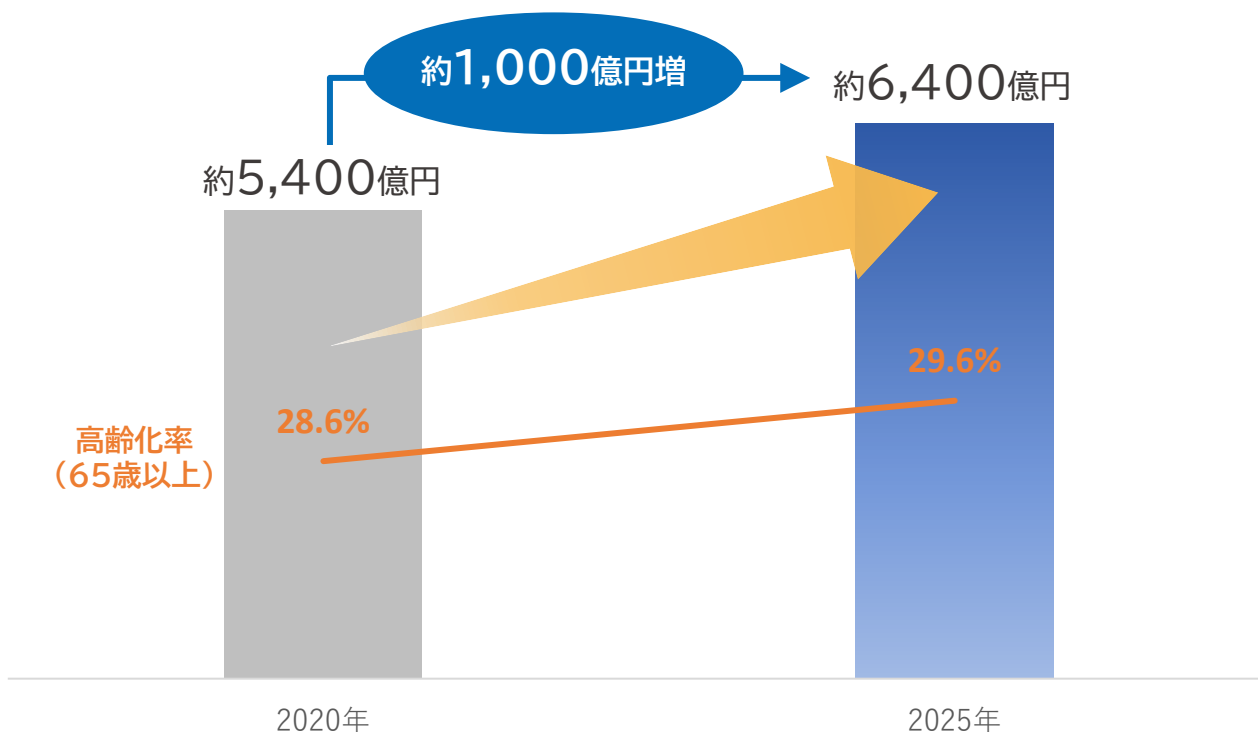
長年の化粧品、健康食品などの販売による幅広い販路への供給力

ブランドアンバサダー起用やTVCM、POP UPストアなど積極的な販促活動

通信販売化粧品市場のうち、当社グループがターゲットとする「シニア層向け」は、通信販売のさらなる普及や国内人口の高齢化によりさらに市場が拡大することが期待されています。

化粧品通信販売の市場規模

化粧品通販全体は堅調な成長マーケットであり、当社がターゲットとするシニア向けは、高齢化率の進展により全体を上回る成長を想定



(出所)化粧品通販市場:週刊粧業、高齢化率:総務省

化粧品通信販売のビジネスモデルと当社の強み



シニア向けに特化した製品開発
通販化粧品(化粧下地)で
10年連続売上No.1※
累計出荷数550万個



<主力のシルキーカバー>

※2016～2025年化粧下地(通販部門・単品別売上)
TPCマーケティングリサーチ(株)調べ

「統合報告書2026」を発行(7月13日リリース)

ステークホルダーの皆様との対話を通じて、当社グループの価値創造ストーリーへの理解を深めていただくことを目的に発行しています。
本年は、企業理念体系の刷新を大きな節目と位置づけ、パーパスを起点とした価値創造モデルの体系化をはじめ、付加価値適正分配などの経営フレームワークを重点的に開示しています。
グループ全体が一つの方向を向いて前進する姿を、財務・非財務の両面からお伝えします。



[こちら](#)からご覧いただけます。

Point1

企業理念体系の刷新

～パーパスから行動指針まで、
グループ共通の判断軸を策定



Point2

価値創造モデルの体系化

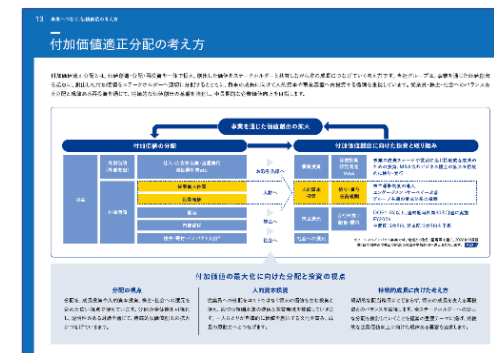
～グループ全体の価値創出を可視化



Point3

付加価値適正分配の実践

～価値の創出・分配・再投資を一体で捉える
枠組みを確立



Environmental

環境情報イニシアティブであるCDPが実施する調査により「気候変動」分野で「B-」に選定(2024年度より改善)



Social

経済産業省と日本健康会議が実施する健康経営優良法人認定制度において「健康経営優良法人2026(大規模法人部門)」に5年連続で認定



東京都が取り組む「東京女性リーダーズ応援ネットワーク」へ賛同企業として参画



当社グループ従業員持株会を通じた「特別奨励金スキーム」の導入

- 従業員の経営参画意識の醸成、グループ一体感の強化及び企業価値向上への意欲喚起を目的として、アステナグループ従業員持株会を通じ、持株会会員に対し、特別奨励金として当社株式を付与
- 持株会会員 814名を対象に約90百万円相当の株式を付与
- 持株会への加入率が約30pt向上

Governance

IR活動、情報開示の強化

- 決算説明資料を従来の中間、期末に加え1Qと3Qにおいても開示を開始
- スプレッドシートベースのDATABOOKの開示を開始
- 5月に個人投資家向け説明会を開催(会場開催+オンライン配信)



- 01 2026年11月期第2四半期 決算概況
- 02 トピックス
- 03 (ご参考)会社・事業概要**

会社概要

(2025年11月末日現在)

会 社 名	アステナホールディングス株式会社 (Astena Holdings Co., Ltd.)
本 社	本社／東京都中央区日本橋本町四丁目8番2号 珠洲本社／石川県珠洲市上戸町北方四字177番3
創 業	1914年(大正3年)7月10日
設 立	1941年(昭和16年)9月20日
代 表 者	代表取締役社長 瀬戸口 智
決 算 期	毎年11月末
資 本 金	46億2千9百万円
事 業 内 容	ファインケミカル事業、HBC・食品事業、医薬事業、化学品事業、ソーシャルインパクト事業
グ ル ー プ 会 社	スペラファーマ(株)、イワキ(株)、岩城製薬(株)、メルテックス(株)、アステナミネルヴァ(株)など 子会社27社、関連会社1社

株式情報

上 場 市 場	東証プライム市場
証 券 コ ー ド	8095
発行可能株式総数	136,000,000株
発行済み株式総数	41,097,566株
株 主 数	52,810人

5つの事業で合計13部門で日々の暮らしに密接に関わる多様な製品・サービスを提供しています。

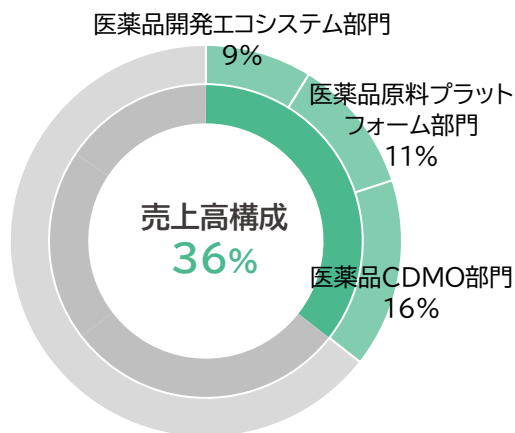
戦略	事業	部門	事業概要	主要事業会社
プラットフォーム戦略	ファインケミカル事業	医薬品開発エコシステム部門	医薬品のCMC*研究開発および製造受託 *Chemistry, Manufacturing and Control	スペラファーマ JITSUBO
		医薬品原料プラットフォーム部門	医薬品原料の販売	スペラネクサス(商社機能)
		医薬品CDMO*部門 *Contract Development and Manufacturing Organization	医薬品、医薬品原料の製造・販売	スペラネクサス(製造機能) 岩城製薬佐倉工場
	HBC*・食品事業 *Health & Beauty Care	食品原料部門	食品原料、機能性食品原料の販売、受託加工	イワキ
		化粧品原料部門	化粧品原料の販売	イワキ、池田物産 IKEDA Corporation of America
		ライフサイエンス部門	創薬支援・体外診断用医薬品、医療機器、薬事サポート事業	イワキ
		化粧品製販部門	化粧品、健康食品等の卸売り、通信販売 化粧品の輸入代行など	マルマンH&B、アプロス アインズラボ
ニッチトップ戦略	医薬事業	医薬品部門	後発医薬品を主とした医薬品の製造・販売	岩城製薬
		美容医療部門	医療機関向け化粧品の販売	岩城製薬
	化学品事業	表面処理薬品部門	表面処理薬品の製造・販売	メルテックス 海外子会社
		表面処理設備部門	プリント配線板等の製造プラントの製造・販売	東京化工機など
ソーシャルインパクト戦略	ソーシャルインパクト事業	ヘルスケア部門	ヘルスケアブランド「NAIA」の企画・販売など	NAIA
		地方創生部門	ふるさと納税プラットフォームの構築	アステナミネルヴァなど

事業概要(ファインケミカル事業)

医薬品開発エコシステム部門、医薬品原料プラットフォーム部門、医薬品CDMO部門の3部門を柱とし、原材料調達からCMC研究開発、商用原薬生産から商用製剤製造まで、医薬品開発・製造の幅広いバリューチェーンでサービスを提供しています。

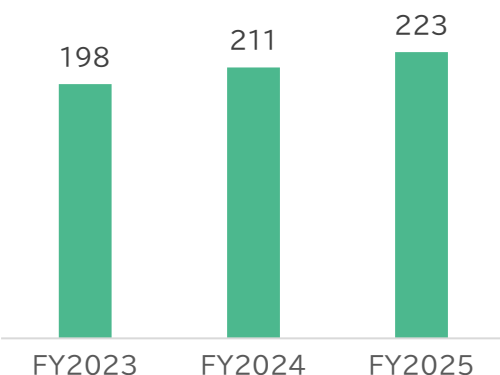
※CDMO:Contract Development & Manufacturing Organization ※CMC:Chemistry, Manufacturing and Control

売上高構成(2025年11月期)

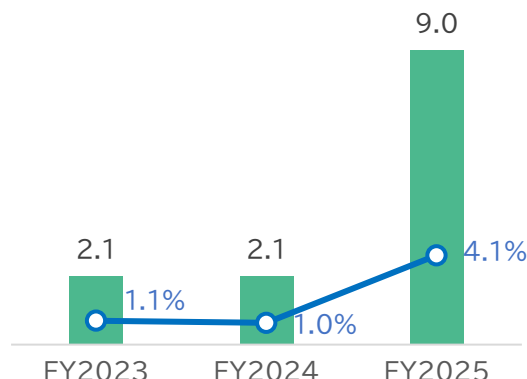


業績推移

売上高(億円)



営業利益/率(億円/%)



医薬品開発エコシステム部門

スペラ
ファーマ

- ・日本トップクラスの医薬品CMC研究開発を展開

JITSUBO

- ・ペプチド医薬品を支える特許技術であるMolecular Hiving™法の開発

医薬品原料プラットフォーム部門

スペラ
ネクサス
(商社機能)

- ・医薬品原料、原薬の国内外における仕入れ・販売
- ・国内大半の医薬品製造販売業とのビジネスコンタクトを有する

医薬品CDMO部門

スペラ
ネクサス
(製造機能)

- ・多彩かつ高度な大量製造技術を保有し、後発医薬品の商用原薬の製造、新薬の中間体及び原薬の受託製造

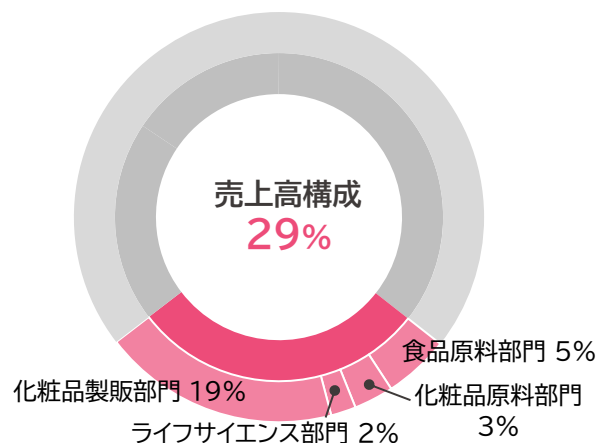
岩城製薬
佐倉工場

- ・新薬製造にも耐えうる注射剤、半固形剤、固形剤の製造受託が可能

事業概要(HBC・食品事業)

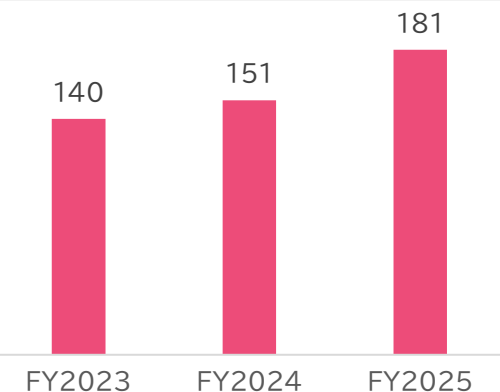
HBCとは、「Health & Beauty Care」の略称です。化粧品原料・食品原料の販売、化粧品・健康食品の販売と導入支援、研究用試薬・体外診断用医薬品・医療機器の販売と導入支援を中心に4つの部門で展開しています。

売上高構成(2025年11月期)

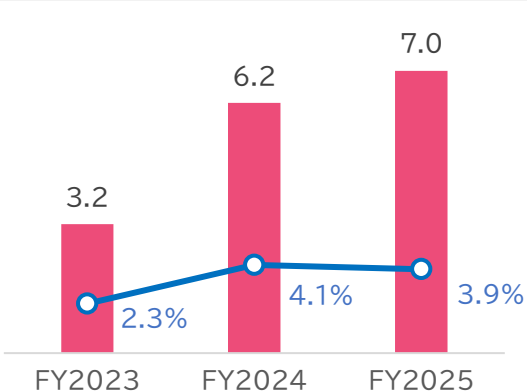


業績推移

売上高(億円)



営業利益/率(億円/%)



食品原料部門

イワキ

- 食品原料、機能性食品原料の仕入れ・販売

化粧品原料部門

イワキ
池田物産
IKEDA
Corporation
of America

- 化粧品原料の仕入れ・販売
- 国内外の原料素材メーカーのあらゆる商品を選別し化粧品メーカーに供給

ライフサイエンス部門

イワキ

- 創薬支援製品／受託サービス・研究用試薬・臨床検査薬、国内外の医療機器、人工呼吸器などの提供・販売
- 医療機器の薬事申請と製造販売業受託を主とする薬事支援業務

化粧品製販部門

アプロス

- 自社ブランド化粧品の通信販売

マルマン
H&B

- 韓国などからのコスメの輸入・販売
- 健康食品、自社化粧品ブランドなどの開発・販売

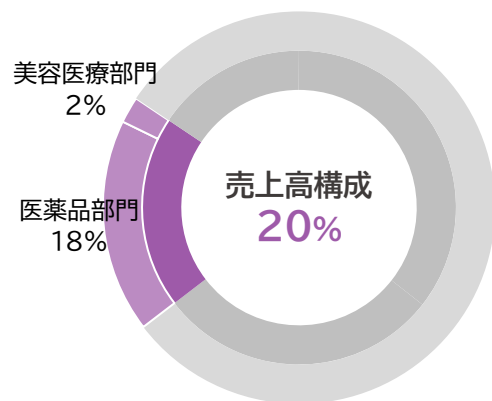
アインズラボ

- 海外化粧品の輸入代行、化粧品分析・広告表現適法チェックなど

事業概要(医薬事業)

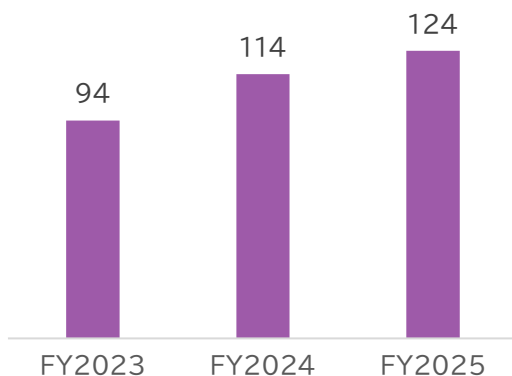
医薬品や医療機関専売化粧品の開発・製造・販売を行っております。医薬品部門は、軟膏やクリーム・ローションなどの半固形剤を主とする開発・製造・販売を行っております。美容医療部門では、美容施術の前後にも使用していただける医療機関専売化粧品を展開しています。

売上高構成(2025年11月期)

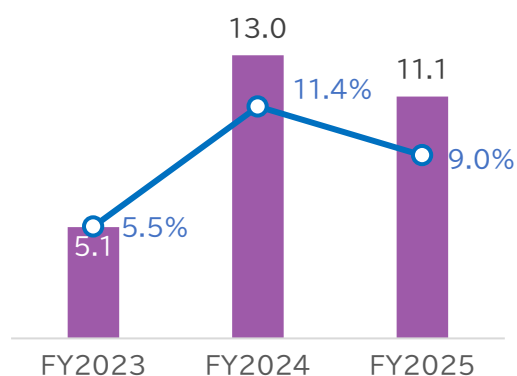


業績推移

売上高(億円)



営業利益/率(億円/%)



医薬品部門

岩城製薬

- 皮膚科領域の半固形剤に特化したニッチトップメーカー
- 高い皮膚科カバレッジを有する
- 稀少な半固形剤の製剤開発技術を有する

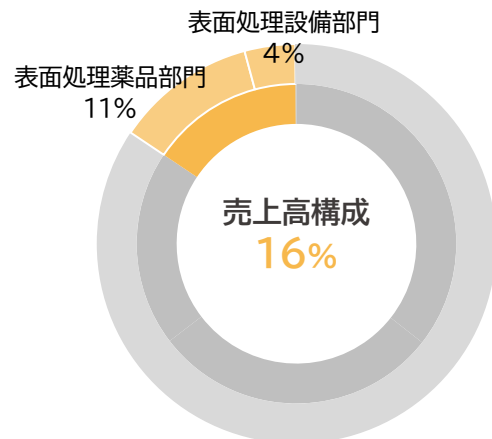
美容医療部門

岩城製薬

- 医療機関専売化粧品である「NAVISION DR (ナビジョンDR)」および「illsera(イルセラ)」ブランドを展開

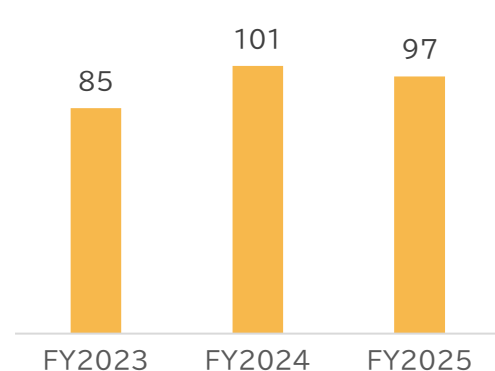
表面処理薬品の先端を目指して、プリント基板・電子部品・半導体・自動車の4セグメントを中心に研究開発や新しい製造方法の開発に注力しています。また、プリント基板製造に欠かせない装置を製造販売し、薬品と装置の総合的なソリューションを提供しています。

売上高構成(2025年11月期)

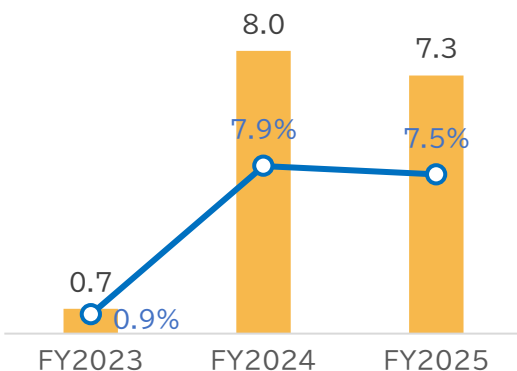


業績推移

売上高(億円)



営業利益/率(億円/%)



表面処理薬品部門

メルテックス
海外子会社

- ・エレクトロニクス業界におけるハイエンド表面処理薬品に特化したニッチトップメーカー
- ・主としてアジア諸国に広いカバレッジを有し、半導体・電子部品領域で高い市場シェアを確保

表面処理設備部門

東京化工機
海外子会社

- ・プリント基板製造用の高品質、高精細なエッチングマシンの製造販売

- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び一般的に認識されている経済・社会等の情勢に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経営環境の変化等様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれています。

お問い合わせ窓口
アステナホールディングス株式会社
経営企画部 広報・IRグループ
Tel:03-3279-0564